

「出題の意図」

選抜区分	平成 31 年度 （選抜区分：推薦） 文学部 比較文化学科 （科目名：小論文）
出題の意図 (評価のポイント)	1. 出題の背景・求める能力 【出題の背景】 問題 I 問題文は、 <i>Time for Kids</i> (April 13, 2018) に掲載されたエッセイ “The Problem with Plastics” から出題した。深刻な海洋汚染等を引き起こしているプラスチックごみの問題とそれを解決するための取り組みについて述べられている。 問題 II 問題文は、『世界遺産 年報 2013』（2013 年、朝日出版社）に掲載された西村幸夫氏の談話「深化しつつある人類と地球の価値」から一部を抜粋して出題を行った。この談話は世界遺産条約採択 40 年を振り返りながら、世界遺産の意義と変化について述べる内容である。 【求める能力】 問題 I 問 1、問 2 は、現在論争となっている国際的な問題を英語で読み、その論旨を正確に読み取れるかを問う問題である。 問 3 では、この問題に対する自分の意見を英語で的確に述べられるだけの論理性と英語力を備えているかを測る。 問題 II 問 1 は、問題文全体を読んで内容を総合的に読み取り、重要な項目をもれなく拾えるか、また数多くの項目を的確な言葉でまとめる能力があるかを問う問題である。 問 2 は、世界遺産の多様化という話題から、世界規模でのものの考え方や価値観の変化という問題について独自の視点から論じることができる思考力があるか、論理的な文章を作成することができるかを見る問題である。 解説(解法) 問題 I 問 3 問題文では、現在世界中で問題となっているプラスチック製品が環境や生命にもたらす悪影響とそれをいかに解決するかについて述べられて

いる。よって、解答には少なくとも以下を満たす必要がある。

- ①本文を踏まえつつ、プラスチック製品の問題をどう考えているかを、自分の言葉で述べていること
- ②正確な英語を用いていること

「自分の考え」が、筆者の意見と同じか、反対かにかかわらず、論理の一貫性と的確性を高く評価する。

問題Ⅱ

問 1

多様化以前の傾向については、ヨーロッパ的な「モノ中心主義」と自然遺産についての「厳正自然」の両方を回答しているかがポイントとなる。

新しいタイプとしては、以下の六つのうちどれだけが読み取れているかがポイントとなる。

- ①材料は保存されていないが、技術や工法が継承されている建築など。
- ②自然遺産と文化遺産をつなぐ「文化的景観」という概念。
- ③モノよりも伝統的農業などの無形文化。
- ④全体の仕組みに価値が認められる産業遺産。
- ⑤今後の変化が予想される 20 世紀建築。
- ⑥複数の国にまたがる遺産。

これらの重要ポイントをすべて読み取るためには、問題文の一部ではなく、全体を読むことが必要となる。とりわけ「多様な広がり」を読み取るためには、問題文の下線部以降をていねいに読まなければならない。

問 2

世界規模・人類共有財産としての世界遺産について、その普遍的価値が理解できているか、そのことが論理的な文章で表現できているかが採点基準となる。また、世界遺産登録のプラス面だけでなくマイナス面も考察していれば、評価はさらに高くなる。

➤ 受験生への情報提供

普段からニュースや新聞を通して国内外の情勢に関心を待ち、自分自身も世界の一員であることを自覚し、現代の問題に向き合うという意識を持って大学受験に臨んでもらいたい。